



2020年夏季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアンケートによる夏季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 夏季ボーナスは、全体の60.9%が「支給される」と回答した。増減見込みは「減りそう」が前年より増加し、「同じくらい」「増えそう」が減少した。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（43.6%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（69.9%）」が最多で、貯蓄の目的は「病気・災害への備え（44.8%）」貯蓄の方法は「定期性預貯金（57.4%）」が最も多い。
4. クレジット・ローン返済は、「自動車（55.4%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（55.3%）」、「靴、バッグ類（31.9%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（大型店）（51.1%）」がトップだった。県外での買物予定地は、九州5市（※）の中で「福岡市（52.4%）」が最も多い。
6. 生活状況は「変わらない（65.3%）」が最も多いものの、DIは「▲16.8」と前年比4.0ポイント（以下「P」）悪化した。
7. 品目別の物価状況DIは「食品（生鮮食品を除く）」が「+40.3」と最も高い。
8. キャッシュレス決済は「元々利用していた（49.4%）」「消費税率引上げ後から利用を始めた（25.4%）」を合わせて7割以上が利用している。
9. 新型コロナウイルス感染症（以下「新型肺炎」）の買い物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（70.0%）」が最も多い。

※ 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

調査の実施要領

調査時期：2020年5月18日（月）～5月24日（日）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：524名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	103	19.7	独身	205	39.1	男性	262	50.0	会社員	473	90.3	
30歳代	159	30.3	既婚	子供有り	271	51.7	女性	262	50.0	公務員	49	9.4
40歳代	132	25.2		子供無し	48	9.2	合計	524	100.0	その他	2	0.4
50歳代以上	130	24.8	合計	524	100.0				合計	524	100.0	
合計	524	100.0										

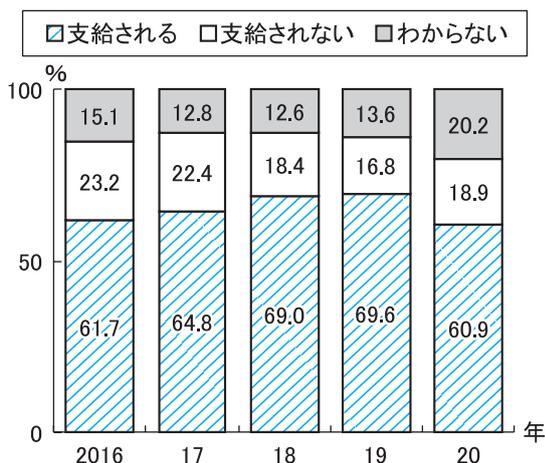
※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が60.9%

夏のボーナスは「支給される」の割合が60.9%と、前年比8.7P低下した(図1)。「わからない(20.2%)」「支給されない(18.9%)」は前年より上昇した。

図1. 夏季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「減りそう」が前年より倍増

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい(63.6%)」「減りそう(24.5%)」「増えそう(11.9%)」となった。

「減りそう」は前年比12.4P上昇し、2016年のインターネット調査開始以降、最も多い結果となった(図2)。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円～30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(43.6%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(25.7%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満」が49.1%と最も多く、前年比1.4P低下した(表1)。「10万円未満」「30万円～50万円未満」「50万円～80万円未満」の割合は、共に前年より上昇した。

図3. ボーナスの見込み額

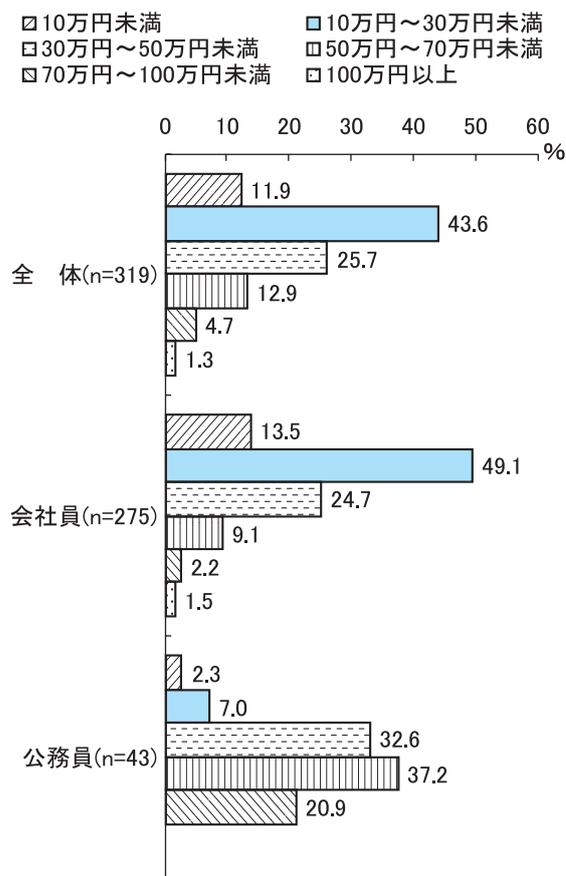


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

金額	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2020年	13.5	49.1	24.7	9.1	2.2	1.5
2019年	11.7	50.5	22.9	8.6	3.2	3.2
前年比	1.8	▲1.4	1.8	0.5	▲1.0	▲1.7

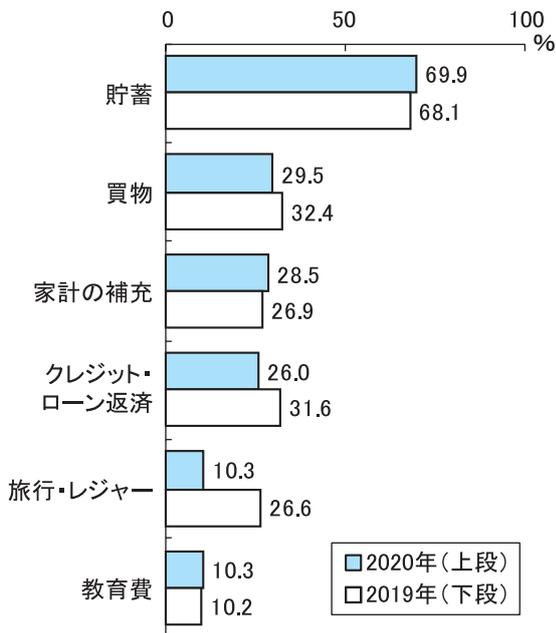
3. ボーナスの使いみち（複数回答）

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄（69.9%）」が最も多く、以下、「買物（29.5%）」「家計の補充（28.5%）」「クレジット・ローン返済（26.0%）」と続いた（図4）。

前年比では「旅行・レジャー（10.3%）」が▲16.3 Pと大幅に低下した。

図4. ボーナスの使いみち（複数回答）



(1) 「貯蓄」

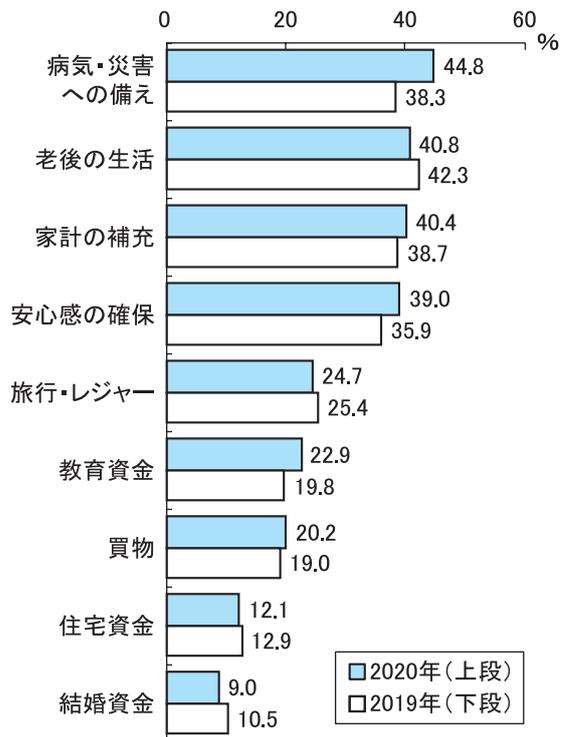
①貯蓄の目的（複数回答）

「病気・災害への備え」が最多

貯蓄の主な目的は「病気・災害への備え（44.8%）」が最も多く、「老後の生活（40.8%）」「家計の補充（40.4%）」と続いた（図5）。

前年比では「病気・災害への備え」が6.5 P上昇し、「老後の生活」は1.5 P低下して順位が入れ替わったほか、「安心感の確保（+3.1 P）」「教育資金（+3.1 P）」等も上昇した。

図5. 貯蓄の目的（複数回答）

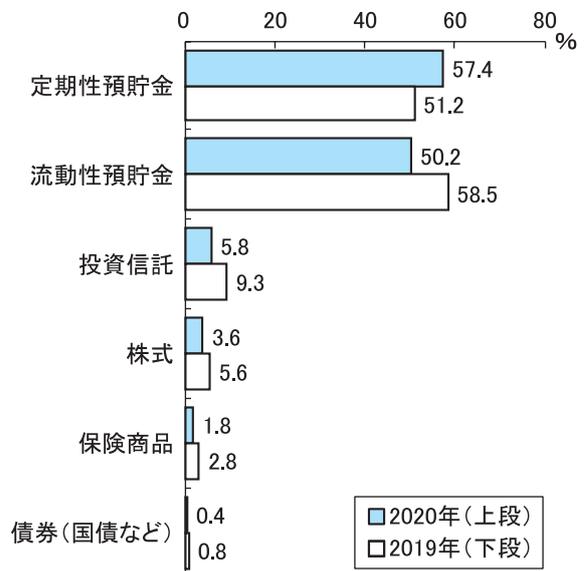


②貯蓄の方法（複数回答）

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金（57.4%）」が前年比6.2 P上昇し「流動性預貯金（50.2%）」が同8.3 P低下したことから、順位が入れ替わった（図6）。預貯金以外の割合はそれぞれ1割未満と低かった。

図6. 貯蓄の方法（複数回答）



(2) 「クレジット・ローン返済」

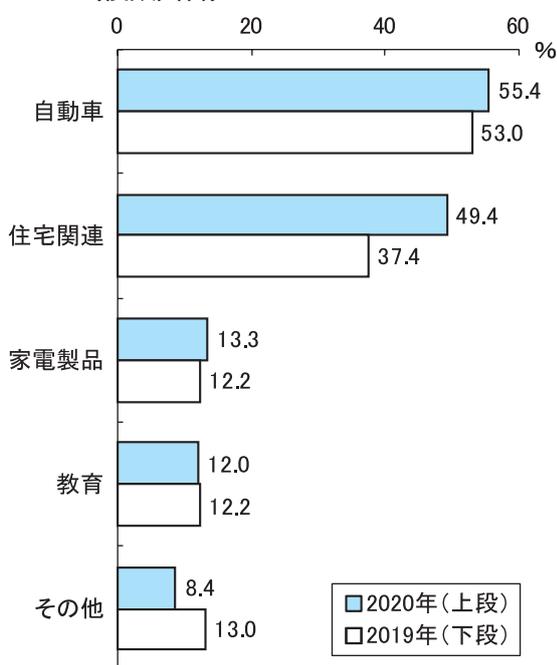
(複数回答)

「自動車」が55.4%

クレジット・ローン返済では「自動車(55.4%)」が最も多く、次いで「住宅関連(49.4%)」となった(図7)。

前年比では「住宅関連」が12.0 P上昇した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買物」

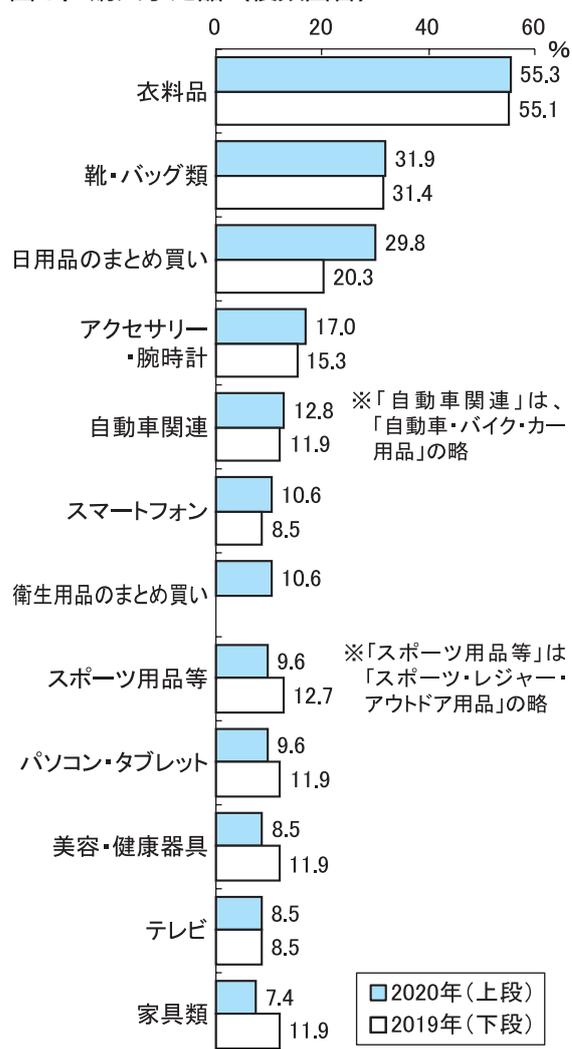
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(55.3%)」が最も多く、「靴・バッグ類(31.9%)」「日用品のまとめ買い(29.8%)」「アクセサリー・腕時計(17.0%)」と続いた(図8)。

前年比では、「日用品のまとめ買い」が9.5 P上昇した。今回、新たに選択肢に加えた「衛生用品のまとめ買い」は10.6%あった。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンター(大型店)がトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(51.1%)」が最多で、「通販・ネット販売(44.7%)」「家電量販店(27.7%)」となった(次頁表2)。

居住地別では、「SC」は宮崎市(58.1%)延岡市(50.0%)で多く、延岡市は前年比12.5 P上昇した。「通販・ネット販売」は宮崎市が51.2%と最も多く、同17.1 P上昇した。「デパート」は3市とも前年より低下した。

表2. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

(単位：%)

買物先 居住地	SC	通販・ ネット販売	家電 量販店	デパート	ディスカ ウントストア
全 体	51.1	44.7	27.7	26.6	26.6
	44.9	38.1	28.8	33.1	24.6
宮崎市	58.1	51.2	27.9	30.2	23.3
	59.1	34.1	20.5	38.6	20.5
都城市	26.7	40.0	33.3	20.0	33.3
	25.0	41.7	33.3	20.8	37.5
延岡市	50.0	40.0	30.0	10.0	40.0
	37.5	37.5	25.0	50.0	18.8

回答者数 94 人

※上段：2020年 下段：2019年

③買物予定地（複数回答）

全ての地区で、地元を買物予定地とする回答が最も多い（表3）。前年比では、「宮崎地区（注1）」を除く全ての地区で地元の割合が上昇した。

「県外」は、「小林地区（注5）（50.0%）」「延岡地区（注3）（30.4%）」で高かった。

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位：%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区 (注1)	91.8	-	4.1	-	-	16.3
	97.9	2.1	2.1	-	-	14.9
都城地区 (注2)	40.0	93.3	-	-	-	20.0
	37.5	91.7	-	4.2	-	33.3
延岡地区 (注3)	39.1	-	60.9	-	-	30.4
	44.8	-	55.2	-	-	37.9
日南地区 (注4)	100.0	100.0	-	100.0	-	-
	33.3	33.3	-	33.3	-	66.7
小林地区 (注5)	66.7	16.7	-	-	83.3	50.0
	75.0	25.0	-	-	25.0	25.0

回答者数 118 人

※上段：2020年 下段：2019年

注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

注2) 都城市、北諸県郡

注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

注4) 日南市、串間市

注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地（複数回答）

表3の「県外」の内訳では、「福岡市

(52.4%)」が最も多く、「鹿児島市（47.6%）」「熊本市（23.8%）」と続いた（表4）。

前年比では「福岡市」「鹿児島市」「熊本市」が上昇した。

表4. 県外での買物予定地（複数回答）

(単位：%)

年	福岡市	鹿児島市	熊本市	大分市	北九州市
2020年	52.4	47.6	23.8	14.3	4.8
2019年	40.5	24.3	8.1	21.6	5.4

回答者数 21 人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外主要5市への買物頻度は、全ての市で「1回」が最も高かった（表5）。

表5. 県外での買物頻度（複数回答）

(単位：%)

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	50.8	56.5	51.1	51.3	42.7
	52.6	65.0	46.9	55.1	43.5
2～4回	34.6	39.1	32.3	32.2	36.3
	38.3	30.0	35.2	33.1	34.1
5～9回	8.1	2.2	12.8	10.4	12.7
	5.1	2.5	11.7	5.1	9.0
10回以上	6.5	2.2	3.8	6.1	8.3
	4.0	2.5	6.2	6.8	4.5

回答者数 310 人

※上段：2020年 下段：2019年

(2) 交通手段

県外主要5市への交通手段は福岡市、北九州市を除く全ての市で「乗用車」が9割以上を占めた（次頁表6）。「高速バス」は福岡市、北九州市で約2割の回答があった。前年比では北九州市で「乗用車」が10.4P低下したが、他の市で大きな変化は無かった。

表6. 県外主要5市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗 用 車	61.6	69.6	94.0	93.0	91.7
	59.4	80.0	92.6	89.8	89.3
高速バス	22.2	19.6	3.0	6.1	1.3
	21.7	17.5	3.1	6.8	2.8
J R	4.3	8.7	3.0	0.9	6.4
	4.6	2.5	4.3	0.8	6.2
飛 行 機	8.1	-	-	-	-
	11.4	-	-	-	-
B & S (※)	3.2	-	-	-	-
	2.3	-	-	-	-

回答者数 310 人 ※上段:2020年 下段:2019年
 ※「B & Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansenの頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

5. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が65.3%

現在の生活状況は、全体では「変わらない(65.3%)」が最も多く、「悪くなった」は25.8%、「良くなった」が9.0%で、生活状況DI(注6)は▲16.8となった(表7)。各項目でも、「変わらない」がそれぞれ最も多かった。

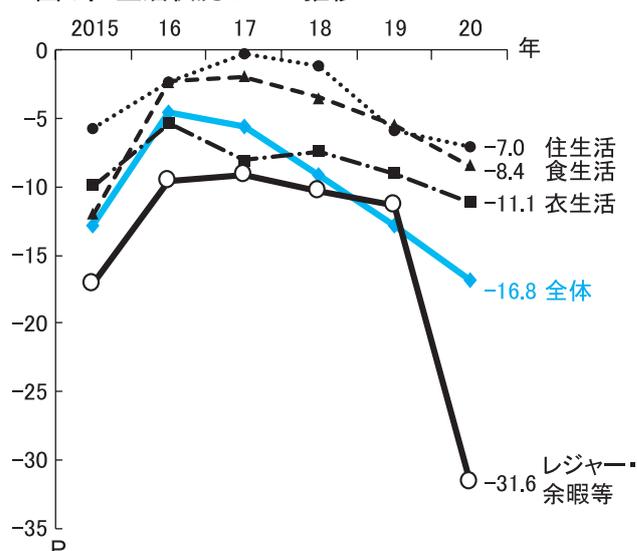
前年比では、各項目とも総じてDIが悪化したことから、「全体」も同4.0P悪化した。特に「レジャー・余暇等(▲31.6)」は同20.3P悪化した(図9)。

表7. 現在の生活状況 (単位: %、P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全 体	9.0	65.3	25.8	▲16.8
	11.1	65.0	23.9	▲12.8
衣生活	5.7	77.5	16.8	▲11.1
	7.1	76.9	16.1	▲9.0
食生活	12.0	67.6	20.4	▲8.4
	13.0	68.5	18.5	▲5.5
住生活	7.3	78.4	14.3	▲7.0
	9.6	75.0	15.5	▲5.9
レジャー・余暇等	7.1	54.2	38.7	▲31.6
	14.5	59.7	25.8	▲11.3

※上段:2020年 下段:2019年
 注6) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

図9. 生活状況DIの推移



6. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況(回答)は、「交通費」「娯楽・趣味」「外食費」を除く品目で「高くなった」が「安くなった」を上回る結果となり、DI(注7)では「食品(生鮮食品を除く)」が40.3と最も高かった(表8)。

前年比は、「住居費」を除くすべての項目で、DIが低下した。

表8. 品目別物価状況 (単位: %、P)

品目	物価	高くなった	不変	安くなった	DI	
					今回	前年
食品(生鮮食品を除く)	42.8	54.7	2.5	40.3	45.7	
光熱水道費	36.3	57.3	6.4	29.9	32.1	
日用品	30.4	63.2	6.4	24.0	30.1	
耐久消費財	22.4	73.0	4.7	17.7	28.7	
通信費	25.5	65.6	8.9	16.6	21.9	
教育費	24.2	67.4	8.3	15.9	24.0	
嗜好品(酒等)	26.8	61.4	11.8	15.0	25.7	
保険料	21.6	71.6	6.8	14.8	21.5	
医療費	23.6	67.0	9.4	14.2	25.1	
住居費	12.2	83.5	4.2	8.0	7.0	
家具・家事用品	16.6	72.7	10.6	6.0	20.4	
被服・履物	15.8	70.6	13.7	2.1	11.2	
交通費	18.8	62.0	19.2	▲0.4	31.0	
娯楽・趣味	18.5	59.6	21.9	▲3.4	20.4	
外食費	23.8	46.9	29.3	▲5.5	27.6	

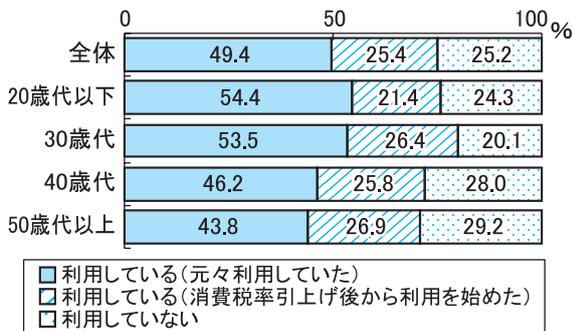
注7) DI = 「高くなった」割合 - 「安くなった」割合

7. 消費税率引上げによるキャッシュレス決済の利用状況

消費税率引上げによる「キャッシュレス決済（注8）」では、『利用している（「元々利用していた」「消費税率引上げ後から利用を始めた」を合わせた回答）』が全体で7割を超え、年代別では30歳代で79.9%と最も多かった（図10）。

注8）消費税率引上げに伴う需要平準化対策として「キャッシュレス・消費者還元事業」が実施され、引上げ後の9カ月間、中小・小規模事業者での支払い（キャッシュレス決済）にポイントが還元される。決済手段は電子的に繰り返し使用可能なクレジットカード、電子マネー、QRコードなどである。

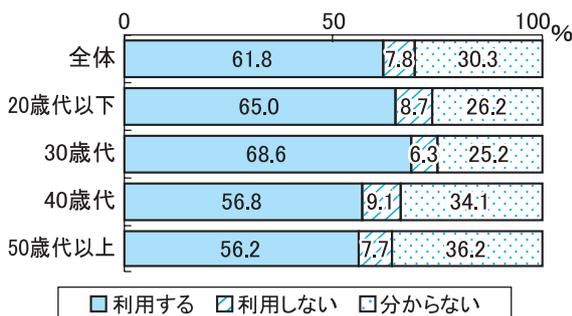
図10. キャッシュレス決済の利用状況



ポイント還元事業終了（2020年6月末）後のキャッシュレス決済利用の意向では、全体で「利用する（61.8%）」が最も多く、次いで「分からない（30.3%）」と続いた。

年代別ではすべての年代で「利用する」が過半数を占め、30歳代は68.6%と最も多かった（図11）。

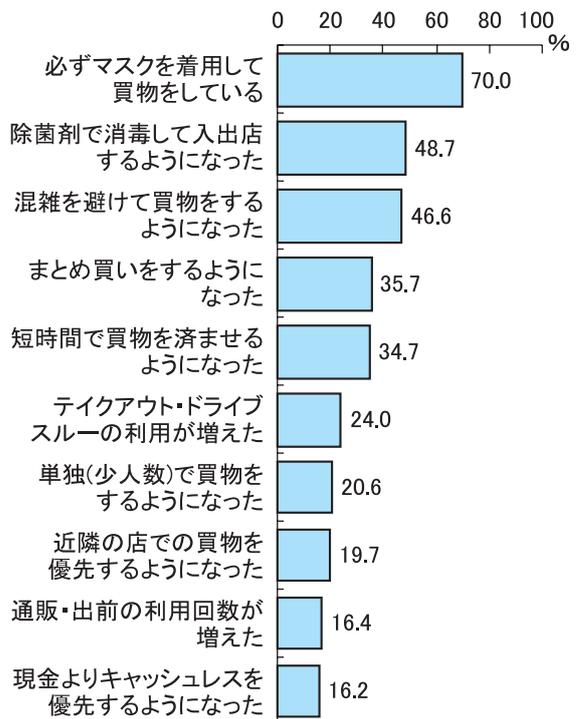
図11. ポイント還元事業終了後のキャッシュレス決済の利用意向



8. 新型肺炎による買い物の変化

新型肺炎による買い物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（70.0%）」が最も多く、「除菌剤で消毒して入出店するようになった（48.7%）」が続くなど、感染予防のために衛生に気を配る行動が上位に挙がった（図12）。

図12. 新型肺炎による買い物の変化



9. まとめ

今回の調査は、前年より「ボーナス支給額が減る」と見込む回答が増え、使いみちは「病気・災害への備え」を目的に貯蓄する回答が多かった。

買物は「まとめ買い」が増え、地元での買い物が増加するなど、新型肺炎を意識した消費行動の変容がうかがえる。生活状況DIが悪化し、物価の値上がり感も強く、生活防衛型の消費行動も予想される。（勝池）